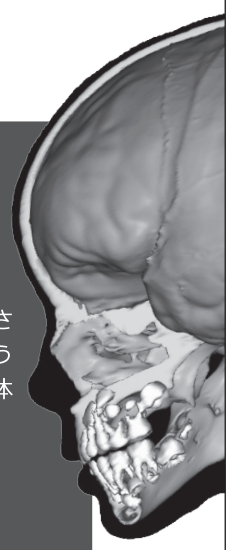
交替劇プロジェクト公開講座

2012.3.24（土）13:00-17:00

開講



講師紹介

赤澤　威（あかざわ たける）（高知工科大学総合研究所教授）

略歴：東京大学大学院理学研究科博士課程中退。学術博士（東京大学）。専門は先史人類学

講演内容：旧人ネアンデルタールと新人サピエンスの間で演じられた交替劇が、現代人起源論争に残された最大の謎として、世界的に脚光を浴びる研究テーマとなっている。いったいネアンデルタール人はどうなったのか。その経過を紹介しながら、交替劇の真相解明に取り組むわれわれ交替劇プロジェクトの全体構想、その現代的意義をお話しする。

西秋良宏（にしあき よしひろ）（東京大学総合研究博物館教授）

略歴：ロンドン大学大学院博士課程修了。Ph.D.（ロンドン大学）。専門は先史考古学

講演内容：旧人ネアンデルタールと現生人類の交替劇がおこった理由の一つとして、彼らの間の技術格差が考えられる。技術とは、道具作りや生業、社会行動など生活全般にかかわるもので、その差は文化の違いということもできる。旧人ネアンデルタールと現生人類の文化には似ているところもあれば、大きく違っている点もあった。近年の考古学的証拠を紹介しながら、両者の文化の違い、それと交替劇との関連について探ってみる。

米田　穣（よねだ みのる）（東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授）

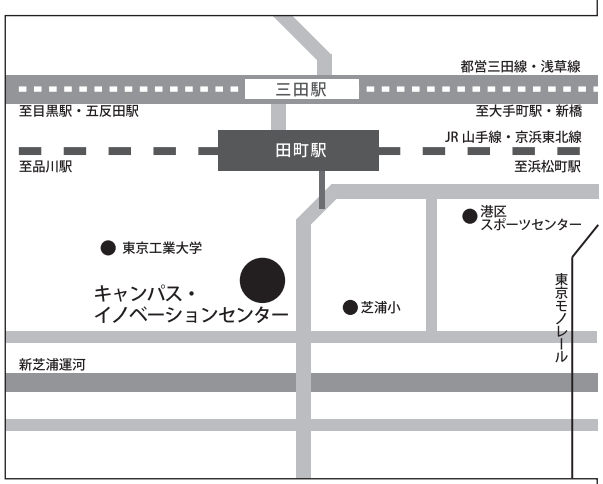
略歴：東京大学大学院理学系研究科博士課程中退。理学博士（東京大学）。専門は先史人類学

講演内容：ネアンデルタール人は、氷河期の欧州に適応した人類である。寒冷化が進む中、アフリカからクロマニオン人が欧州にも拡散してきた。最終氷期の間には、急激な寒冷化と温暖化が繰り返されたことが知られている。この環境変動が２つの人類にどのような影響を与えたのだろうか？過去の気候を復元する方法と、復元された気候変動がネアンデルタール人の絶滅に与えた影響について、これまでにわかっていることを紹介する

関　雄二（せき ゆうじ）（国立民族学博物館教授・総合研究大学院大学教授）

略歴：東京大学大学院社会学研究科博士課程中退。社会学修士（東京大学）。専門はアンデス考古学、文化人類学

講演内容：ユーラシア大陸に拡散した初期人類はやがてアメリカ大陸に渡る。しかし意外なことに、その最初のアメリカ人が、いつ、どのような経路でたどり着いたのかという点について結論は出ていない。またアメリカ大陸への移住の波がいくつ存在したのかについても定説はない。交替劇の後にも謎が残る人類の拡散について、最近の研究を交えながら概観する。



会場：キャンパス・イノベーションセンター東京 国際会議室

住所：東京都港区芝浦3-3-6（JR田町駅芝浦側右歩道最初の9階ビル1階）

http://www.cictokyo

交替劇プロジェクトホームページページ　**http://www.koutaigeki.org**